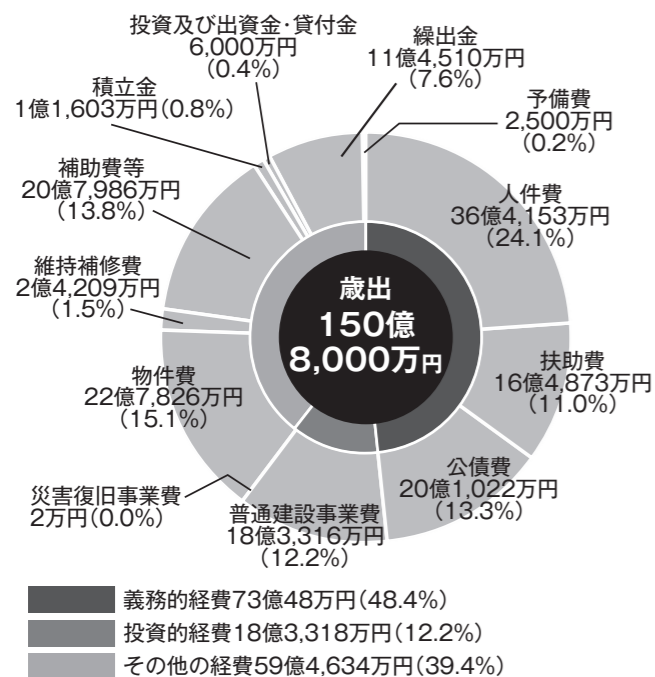
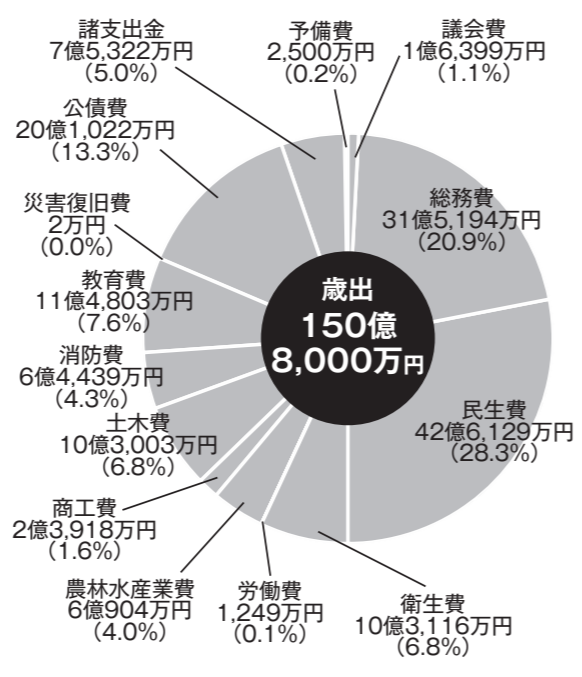


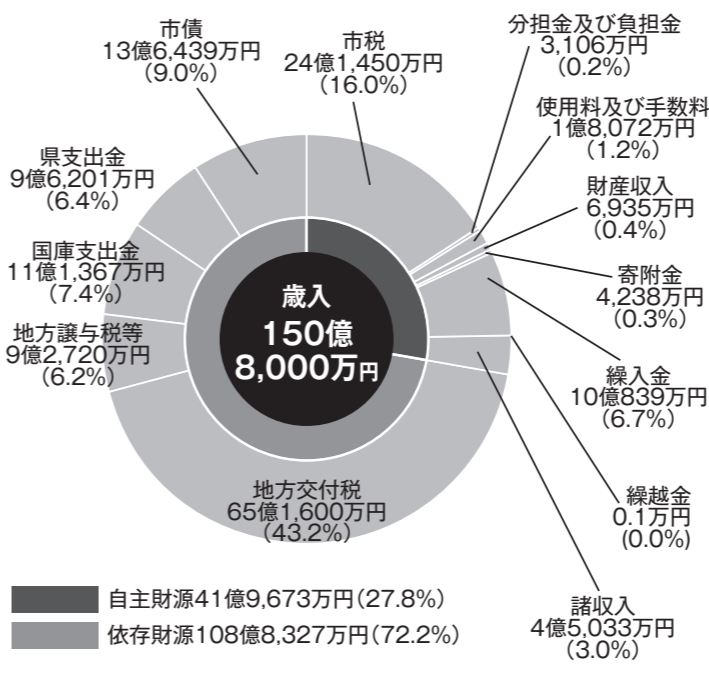
一般会計歳出（性質別）



一般会計歳出（目的別）



一般会計歳入



現在と未来の暮らしを

構築する予算

令和5年度予算書は市民センターや図書館で見ることができます。

財政課
☎0823-43-1629

令和5年度の予算が、市議会2月定例会で可決されました。一般会計の総額は、前年度比5・5%減の150億8000万円、特別会計・企業会計を含めた総額は、前年度比8・2%減の247億780万円となりました。

予算の特徴

令和5年度の予算は、最も重視すべき課題である人口減少の抑制に引き続き取り組むため、「しごと」の創出、「人のつながり・縁づくり」「子育てしやすい環境づくり」「健康寿命の延伸」を重点項目に、インフラ施設の維持管理などの暮らしの基盤整備や、協働のまちづくりの拠点となる施設整備など、「第2次江田島市総合計画」に掲げる「協働と交流で創りだす『恵み多き島』「えたじま」を実現するための施策を盛り込んだ予算としています。

令和5年度は、第3次江田島市総合計画で描く、目指すべき10年後の未来やそのために取り組むべき事項を整理する年になります。不安定感を増す世の中にあって、市民の暮らしを守ることに、次なる未来への備えを行っていくこととして、令和5年度予算を「現在と未来の暮らしを構築する予算」としています。

性質別では、義務的経費が48・4%と高く、投資的経費が12・2%、その他経費が39・4%となっています。このうち、普通建設事業費の減は、大柿市民センター新築工事の完了などによるものです。

一般会計の概要

一般会計は、歳入で市税や公共施設再編整備事業などに伴う市債などが減少しています。市税などの自主財源が27・8%、地方交付税などの依存財源が72・2%で、自主財源が少なく、依存財源に大きく依存する財政構造といえます。歳出の目的別では、民生費が全体の28・3%、総務費が20・9%、公債費が13・3%となっています。

特別会計は、令和3年度と同様に9会計です。特別会計の総額は、77億6840万円、前年度比1・0%の増となっています。国民健康保険特別会計、港湾管理特別会計などが増となり、地域開発事業特別会計、宿泊施設事業特別会計などで、事業の完了などにより減となっています。企業会計は、水道事業が広島県水道広域連合企業団への参画に伴い、皆減となったため、下水道事業の1会計です。収益的支出と資本的支出の総額は、18億5940万円、前年度比

43・1%の減となっています。

基金の見込

令和4年度末および令和5年度末の基金現在高見込は、表のとおりです。令和5年度では、財政調整基金から財源調整のため、9億2000万円の繰入を見込んでいます。

市債の見込

令和4年度末および令和5年度末の市債現在高見込は、表のとおりです。一般会計では、借入額が元金償還額を下回るため、残高が減少する見込みです。

【令和5年度の取り組み】重点項目

▼「しごと」の創出

就業世代が居住地を定める際に「しごと」の場」の所在地は重要な要素です。本市内に新たなしごとの場を創出し、地場にあるしごとの場が元気になることで、多様な雇用の場を確保していくとともに、これからの江田島市を担う就業世代の定着を図り、地元企業の活性化に取り組んでいきます。

▼健康寿命の延伸

住み慣れた地域で、安心して健やかな暮らしを営むための健康づくり、そして、いくつになっても地域で活躍できる場づくりを推進することで、健康寿命の延伸に取り組んでいきます。

▼DXの推進

今後、社会へのデジタル技術の実装が加速していくと見込まれます。利便性が向上する分野や効率化・省力化が測られる分野へのデジタル技術の導入を促進するとともに、限られた人的・物的資源を、デジタル技術では代替できない分野に再配分することで、将来の社会においても、運営可能なまちの構築に取り組んでいきます。